

■ 制裁強化の流れ

△ 2006 年

- 7 月 : 「マンギョンボン 92 号」の入港禁止、航空チャーター便の日本への乗り入れ禁止
- 10 月 : すべての朝鮮籍船の入港禁止、朝鮮からの全面輸入禁止、朝鮮国籍保持者の入国禁止、朝鮮総聯幹部の再入国禁止

△ 2009 年

- 4 月 : 朝鮮への送金の報告基準額を 3000 万円超から 1000 万円超に。
朝鮮持ち出し金の報告基準額を 100 万円超から 30 万円超に。
制裁期間を 6 ヶ月から 1 年以上に
- 6 月 : 朝鮮への全面輸出禁止

■ 最近の報道資料

【産経】制裁すり抜け北朝鮮ビジネス横行 党有力者も関与 2011. 5. 11

不正な輸入事件の背景には、北朝鮮貿易で利益を上げてきた日本側商社らと外貨獲得を狙う北朝鮮側との利害の一致がある。今回の摘発で、北朝鮮の核実験を受けて平成 18 年 10 月に経済制裁が発動されて以降、水面下の“北朝鮮ビジネス”が中国経由の迂回（うかい）ルートによる偽装で横行している実態が浮き彫りになった。

兵庫県警などはこれまでに、大型タンクローリーや日本製化粧品などを中国・大連経由で輸出していた貿易会社役員らを逮捕。関係先の押収資料などから、北朝鮮の秘密警察「国家安全保衛部」幹部が手引きをしている実態を突き止めた。

今回の不正輸入事件でも朝鮮労働党の有力者が関与しているとみられ、関係者は「北朝鮮側が国家ぐるみで経済制裁をすり抜ける対日工作の一環」と分析する。いまま北朝鮮の有力者の間では日本製の日用品が重宝されている一方、北朝鮮との交易だけで利益を上げていた国内の北朝鮮系商社などは経済制裁で収入がなくなった。

さらに、今回逮捕された繊維商社員のよう、安く衣服を加工できる北朝鮮に着目するケースもあり、捜査関係者は「表面化した不正は氷山の一角」と警戒を強めている。

【読売】北朝鮮製女性用ショートパンツを密輸入した容疑 2011. 5. 11

北朝鮮で加工した衣類を中国製と偽って密輸入したとして、兵庫県警は 11 日、名古屋市のアパレル会社「旭屋」社員坂野明広（40）（名古屋市緑区）、大阪市の貿易会社「東亜貿易」（一昨年解散）元会長で朝鮮籍の梁大由（65）（大阪市生野区）、同市の繊維業「テキスタイルナカギ」取締役中木正博（44）（大阪府吹田市）の各容疑者ら 4 人を外為法違反（無承認輸入）容疑で逮捕した。東亜貿易元社長（47）の逮捕状も取っており、行方を追っている。

県警によると、坂野容疑者らは共謀し、2009 年 4 月 23 日、坂野容疑者らが北朝鮮・平壤市内の工場に委託して縫製させた女性用ショートパンツ約 300 着（9 万円相当）を中国・大連経由で大阪南港から輸入した疑い。

坂野、中木両容疑者は容疑を認め、梁容疑者らは否認しているという。

— 資 料 —

【朝鮮中央通信 報道】

金正日総書記、在日同胞に慰問金
朝鮮中央通信 平壤 3 月 24 日

金正日総書記は、日本で発生した大規模地震
と津波より被害を受けた在日同胞に慰問金 50
万 US ドルを送った。

朝鮮赤十字会から日本赤十字社に慰問金
朝鮮中央通信 平壤 3 月 24 日

朝鮮民主主義人民共和国赤十字会中央委員
会は最近、日本で発生した大地震により多く
の人命被害と物質的損失がもたらされたこと
と関連し、被害者と遺族の方々に深い同情を
示すとともに、日本赤十字社に 10 万 US ドル
の慰問金を送った。

【被災状況とこの間の活動について】

1. 朝鮮総聯中央本部は、『『東日本大震災』被害同胞救援総連中央緊急対策委員会』を地震発生
後ただちに設置し、被災した現地本部との緊密な連携のもと、同胞の安否確認と朝鮮学校と
同胞の家屋、商工人の被害状況を確認、把握することに優先的な力を注いだ。

対策委員会は、もっとも被害を受けた宮城県本部をはじめ、岩手、茨城、福島県本部にただち
に対策委員を派遣し、慰問金と支援物資を渡した。

1) 人的被害（4 月 22 日現在）

- ① 死亡が確認された同胞 計 14 名（茨城 2 名、岩手 3 名、宮城 9 名）

- ② 安否未確認

総数 105 戸 250 余名

県別内訳

- ・宮城県 250 余名
- ・岩手県 1 名

2) 物的被害（宮城、岩手、福島、茨城、青森、栃木、東京）

- ①家屋 計 83 戸（全壊 33 戸、半壊 18 戸、一部破損 32 戸）

- ②店舗・事業所など 計 228 箇所

全壊 44 箇所

半壊 67 箇所

一部破損 25 箇所

その他営業停止 92 箇所

- ③福島第 1 原発被害 30 キロ以内 16 戸

- ③朝鮮学校の被害状況

— 東北朝鮮初中級学校

50 cmほどの地盤沈下により校舎が傾く。教員室と廊下の壁が崩れ、教員室が使えない状況。寄宿舍 3 号棟の真ん中部分が地盤地下により陥没。

— 福島朝鮮初中級学校

校舎の柱にひび割れ。寄宿舍 1 階の壁の一部が崩れる。

— 朝鮮大学校

給水タンクが故障。

— 東京朝鮮中高級学校

文化会館の天井壁と電灯が破損し落下。校舎の窓ガラス 8 枚が割れる。

— 千葉朝鮮初中学校

水槽タンクにひび割れ。

(その他) 首都圏 5 つの朝鮮学校で窓ガラスと一部の外壁が崩れるなどの被害。

2. 緊急対策委員会は、被害を受けた総聯、民団を含めたすべての同胞たちへの支援に取り組んでいる。

1) 現在、金正日総書記が送ってくださった慰問金を被災したすべての同胞に届けている。

- 遺族達へ故人 1 人あたり、20 万円
- 家屋 1 戸あたり、全壊 15 万円、半壊 10 万円、床上浸水 5 万円
- 店（事業所）1 店舗あたり、全壊 15 万円、半壊 10 万円
- 原子力発電所事故による、放射能被害同胞 1 戸あたり、5 万円

2) 被災した学校支援のための募金活動を行っている

被災した同胞を支援するための「『東日本大震災』被害同胞救援募金運動」を全組織的、全同胞的に繰り広げ、多くの同胞たちが温かい同胞愛を持って募金活動に参加するよう呼びかけている。

3) 被災地へ支援物資を届ける活動を積極的に行っている

①総聯中央緊急対策委員会の呼びかけにより、現在 49 の団体が支援を行っている。(3 月 23 日現在)

②主な支援物資は米、カップめんなどの食料品、飲料水、医薬品、日用品などである。

米 3 トン、水・飲料水 1.5 トン、カップメン 3,500 食、肉 700kg、野菜 100kg、
レトルト食品 ダンボール 430 箱、医薬品 ダンボール 180 箱、日用品 1 万 1,600 品、
衣類 3 千着、オートバイ 5 台、軽トラック 1 台など

③朝鮮学校が同胞と日本の市民の避難拠点となっていた。

・福島朝鮮初中級学校と茨城朝鮮初中高級学校では、被災した同胞たちが近隣の日本市民と

ともに助け合い、寄り添いながら避難生活を送っていた。

※ 日本人被災者の受け入れ 福島朝鮮学校 8人（4世帯）茨城朝鮮学校 8人（2世帯）

④日本市民への支援も行っている。

― 宮城

- ・3月20日に宮城県仙台市の八木山中学校（仙台）で行われた「炊き出し」では、400食の豚汁とおにぎり、牛乳が用意され、被災者の方々に大変喜ばれた。また、その炊き出しの場で、互いに安否がわからなかった日本の市民が偶然に再会を果たすという嬉しい報告も受けている。
- ・同胞の焼肉店経営者らでつくる「焼肉塾」のメンバーが3月23日に宮城県石巻市の被災地を訪れ、約400人分の焼肉をふるまい被災者らに大変喜ばれた。
- ・同胞が避難している、指定避難所にも支援物資を届けた。
（おにぎり、コメ、カップめん、灯油など）
- ・日朝協会役員に支援物資を手渡した。（コメ10kg、カップめん2ケース、水1ケース）
- ・石巻市の日本市民にもガスコンロなどの支援物資を届けた。
- ・気仙沼市の神社で孤立状態だった被災者約100人に支援物資を届けた。

― 福島

- ・避難所になっている郡山北工業高校に2回支援物資を届けた。
（コメ120kg、肉20kg、キムチ13kg）
- ・南相馬市役所に支援物資を届けた。
（水、粉ミルク、カップめん、コメ、キムチ、薬品、マスク、オムツなど）

※ 京都新聞（4月4日付）参照

― 茨城県

高齢者施設「グループホーム東海荘」へ2回にわたり、276リットルの飲料水を届けた。

4) 医療団を現地に派遣した。

3月20日には、総聯医療団を宮城・仙台に派遣し、地震と停電、断水のなかで疲労が極度にいたっている高齢者をはじめ同胞のために診察を行い、便宜を図った。

―「総聯医療団」の構成：内科医1名、看護師1名、その他看護助手1名

―派遣日時：3月20日午後3時ごろより21日午前中まで

―診察した人数：計56名

5) 商工連合会では、同胞商工人達への支援対策の一環として、「震災関連経営相談窓口」を新たに設け、災害対策支援サイト「災害対策navi」を開設した。

(URL) <https://sites.google.com/a/korea-fci.com/saigai/>